

翻訳 第一回 リー
読者賞

2013年4月13日
東京都文京区鳳鳴館

第一回翻訳ミステリー読者賞投票要項

【対象期間、作品】

2011年11月1日～2012年10月31日（奥付の記載で）の間に出版された翻訳ミステリー。

※ 新訳含む。文庫化、（同一翻訳者による）改訳は除く。

【投票資格】

年齢・性別・職業問わず、翻訳ミステリーを愛する者。常用しているメールアドレスを所有している者。

【投票期間】

2013年3月1日～3月末日

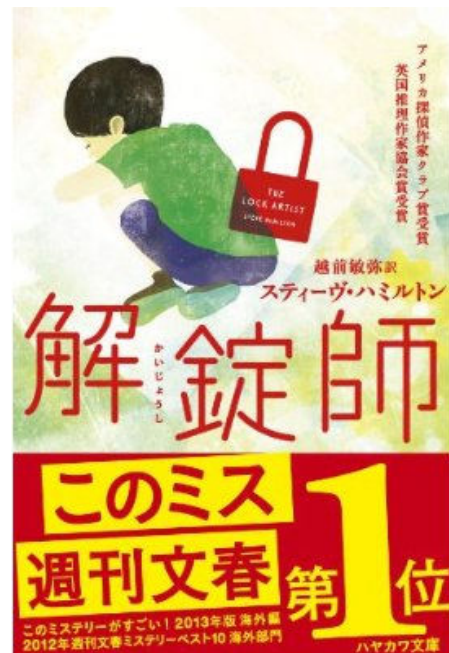
【投票方法】

一人一回のみ一冊だけを選んで、メールにて投票。

【結果発表】

第4回翻訳ミステリー大賞授賞式にて（2013年4月13日）

第1位 解錠師



スティーヴ・ハミルトン（著）越前敏弥（訳）
ハヤカワミステリ文庫 987円（税込）
2011年12月発売

八歳の時にある出来事から言葉を失ってしまったマイク。だが彼には才能があった。絵を描くこと、そしてどんな錠も開くことが出来る才能だ。孤独な彼は錠前を友に成長する。やがて高校生となったある日、ひよんなことからプロの金庫破りの弟子となり、芸術的腕前を持つ解錠師に……非情な犯罪の世界に生きる少年の光と影を描き、MWA賞最優秀長篇賞、CWA賞スティール・ダガー賞など世界のミステリ賞を獲得した話題作。（出版社 Web サイトより）

<投票者コメント>

- 犯罪物の小説だけど、実は「切ない」青春小説でした。二つの回顧録が並行してテンポよく進み、話に引き込まれます。最後も良かったし、読後もスッキリ。お勧めの一冊です。このミス2013年版1位も納得です。
- 残酷な青春—という言葉を連想した小説。翻訳ミステリー大賞シンジケートのサイトを知らなければ、或いは読書会に参加したり、ミステリーファンの方と知り合いにならなければ、決して手に取らなかった種類の本。今まではこの手の内容は毛嫌いしていたので。
- ハラハラドキドキして読んだが、爽やかな読後感が残った。

第1位

深い疵



ネレ・ノイハウス（著）酒寄進一（訳）
創元推理文庫 1260円（税込）
2012年6月発売

ホロコーストを生き残り、アメリカ大統領顧問をつとめた著名なユダヤ人が射殺された。凶器は第二次大戦期の拳銃で、現場には「16145」の数字が残されていた。司法解剖の結果、被害者がナチスの武装親衛隊員だったという驚愕の事実が判明する。そして第二、第三の殺人が発生。被害者の過去を探り、犯行に及んだのは何者なのか。複雑な構成&誰もが嘘をついている&著者が仕掛けたミスリードの罠。ドイツでシリーズ累計200万部突破、破格の警察小説！（出版社Webサイトより）

<投票者コメント>

- 戦時中に起こった事件にまつわる殺人事件、それを解いていく刑事たちのいろいろな事情・・・最後に向かう犯人の告白、その事件を追う刑事たちの懸命な捜査、息をつかせない展開。これを投票に間に合うように読めてよかったと思えた話
- 作者のしかけた罠に他愛もなくだまされ、最後まで驚愕の連続。ミスリードに素直に引っかかること・・・これこそミステリを楽しむ要因のひとつであり、ミステリ初心者の強みでもあると痛感しました。
- とにかく謎解きがおもしろく、個性的すぎる一族から目が離せない。

第1位

吊るされた女



キャロル・オコンネル（著）務台夏子（訳）
創元推理文庫 1554円（税込）
2012年6月発売

キャシー・マロリー、ニューヨーク市警捜査部長。完璧な美貌、コンピューター・ハッキングにかけては天才的な頭脳をもち、他人に感情を見せることのない氷の天使。相棒の刑事の情報屋だった娼婦が、何者かに吊された。美しい金髪は切られて口に詰めこまれ、周囲には虫の死骸。あれこれ臆測をめぐらす仲間を尻目に、マロリーは事件を連続殺人鬼の仕業と断定する。だが……。ミステリ史上最もクールなヒロインが、連続殺人鬼に挑む。（出版社 Web サイトより）

<投票者コメント>

- マロリーという謎の多いクールビューティーの語られざる過去に迫り、それがまた現在の酸鼻な殺人と絶妙のクロスセッションを奏でる。同じくマロリーの生い立ちを描く「天使の帰郷」が、重厚な弦楽四重奏だとすれば、こちらは、路上のフィドラーによるパフォーマンス。過去への扉を開くのが、1冊の古ペーパーバック、それも時代に埋もれたシリーズもののC級ウェスタンというのがなんとも泣かせるではありませんか。ビブリオマニアの心を攪りつつ、作中作家の術中へと「読者」を誘うこの修辞マジックの鮮やかさ！ 虚構の喪われた街路へと幼いマロリーの真実を求める旅に、いざ、皆さんもご一緒に！！
- 未読だったマロリーシリーズでしたが、この一作を読みたちまち引き込まれています。脳内映画化キャスティングも進行中。お気に入りはチャールズ！若い頃のオリヴァー・プラットでいきたいですね。

第4位 占領都市 TOKYO YEAR ZERO II



デイヴィッド・ピース（著）酒井武志（訳）
文藝春秋 2100円（税込）
2012年8月発売

1948年冬の大量毒殺事件を生んだ占領下東京の黒い霧を、ノワールの旗手が鬼気迫る筆で暴きだす。狂気渦巻く漆黒の現代文学、誕生。（出版社 Web サイトより）

<投票者コメント>

- 幻想・怪奇・ノワール・ミステリ・怪談・etc・・・ありとあらゆるジャンルを取り込み、帝銀事件を百物語風に異なる文体で綴った恐るべき書物。もはや読むドラッグと言ってもよいくらいであり、文章って凄い！と今更ながらに思える作品でした。
- デイヴィッド・ピースという外国人作家の視線で、芥川ら戦後近代文学の手法を用いて、表現されているという複雑な面白さがあります。ゆえに、原文でよりも、日本語で読まれるべき本として仕上がっています。作品自体が、翻訳という本来の概念を超えていることを、高く評価したいと思いました。

第4位 毒の目覚め



S・J・ボルトン（著）法村里絵（訳）
創元推理文庫 各 945円（上下巻 税込）
2012年8月発売

その夏、英国の小さな村では蛇が異常発生していた。獣医のクララはある老人の死に疑問を感じる。死因は蛇の毒だが、1匹に咬まれたにしては毒の濃度が高すぎるのだ。さらに近所の家で、世界で最も危険と言われる毒蛇を発見する。数々の事件は、何者かの策略なのか？ 言い知れぬ恐怖と謎に挑む女性獣医の姿を圧巻の筆致で描き MWA 賞受賞に輝いた、壮麗なゴシック・ミステリ。（出版社 Web サイトより）

<投票者コメント>

- イギリスの湿った土が足下からジワジワと這い上がってくるようなおぞましさとヒロインの過去・現在が絡み、彼女を取り巻く男模様が縦糸、横糸に織り込まれページをめくる手をとめることができませんでした。
- 女性が主人公のミステリーで、女性ならではの苦悩や生き方が描かれていて、題材もストーリー展開も面白かった。前作よりも、こちらのほうが主人公に共感できたように思う。ただし、爬虫類は苦手です。

第6位 無罪 INNOCENT



スコット・トゥロー（著）二宮馨（訳）
文藝春秋 2310 円（税込）
2012 年 9 月発売

75 万部のベストセラー『推定無罪』続篇

妻を殺した容疑で判事サビッチは法廷に。法廷闘争の果てに明かされる痛ましく悲しい真相とは。名作の 20 年後の悲劇を描く大作。（出版社 Web サイトより）

<投票者コメント>

- 約 20 年間の歳月をへだてて前作『推定無罪』と共鳴する仕掛けの巧みさには敬服するしかありません。お家芸の法廷シーンの丁々発止のやりとりは他の追随を許しません。
- ラスティとトミーの 20 年余に渡る（友情）とも（憎しみ）ともつかない複雑な関係が描かれたドラマとして、とてもめり込んで読みました。ミステリとしても非常に優れており、読後の満足感がとても高い作品でした。

第7位 冬の灯台が語るとき



ヨハン・テオリン（著）三角和代（訳）
ハヤカワ・ポケット・ミステリ 1890 円（税込）
2012 年 8 月発売

スウェーデンのエーランド島に移住し、双子の灯台を望む「ウナギ岬」の屋敷に住みはじめたヨアキムと妻、そして二人の子供。しかし間もなく、一家に不幸が訪れる。悲嘆に沈むヨアキムに、屋敷に起きる異変が追い打ちをかける。無人の部屋で聞こえるささやき。子供が呼びかける影。何者かの気配がする納屋……そして死者が現世に戻ってくると言われるクリスマス、猛吹雪で孤立した屋敷を歓迎されざる客たちが訪れる。（出版社 Web サイトより）

<投票者コメント>

- 「冬の灯台…」はあまり話題になりませんでした。地味ながら小説としての厚みたっぷりです。読み応え大、でした。「秋」よりも良かったですね。間もなく「春」も出るの、また楽しみ！
- 暗い感じで幽霊も出てきそうなお話で幽霊物なのかと思って読んでましたが最後に謎解きがあったので安心しました。ミステリですよね。読んでいて夏のエーランド島に興味！
- 地味な作品ですが、ヨハン・テオリンはこの 2 作目でだいぶ面白くなりました。

第8位 罪悪

フェルディナント・フォン・シーラッハ (著) 酒寄進一 (訳)
東京創元社 1890 円 (税込)
2012 年 9 月発売



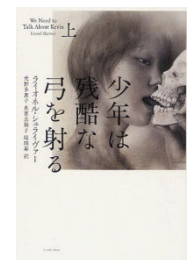
罪人になるのは簡単なのに、世界は何も変わらない。——ふるさと祭りの最中に突発する、ブラスバンドの男たちによる集団暴行事件。秘密結社イルミナティにかぶれる男子寄宿学校生らの、“生け贄”の生徒へのいじめが引き起こす悲劇。何不自由ない暮らしを送る主婦が続ける窃盗事件。弁護士の「私」は、さまざまな罪のかたちを静かに語り出す。「このミステリーがすごい！」第二位など、年末ベストを総なめにした『犯罪』に比肩する傑作！（出版社 Web サイトより）

<投票者コメント>

- シリーズものを読むことが多いので、そのシリーズの中で比べてしまいましたが、これは前作と比べても1番と言ってもいいなあと思いました。
- 一編一編に新鮮なショックを受けました。そういえば、こんなふうにいままで知らなかった感覚に出会いたくて、わたしは翻訳小説を読み続けてきたのではなかったかな、と思い出させてくれた作品でした。

第8位 少年は残酷な弓を射る

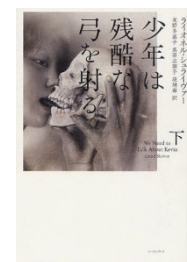
ライオネル・シュライヴァー (著)
光野多恵子・真喜志順子・堤理華 (訳)
イースト・プレス 各 1785 円 (上下巻 税込)
2012 年 6 月発売



キャリアウーマンのエヴァは37歳で息子ケヴィンを授かった。手放して喜ぶ夫に対し、なぜかわが子に愛情を感じられないエヴァ。その複雑な胸中を見透かすかのように、ケヴィンは執拗な反抗を繰り返す。父親には子供らしい無邪気さを振りまく一方、母親にだけ見せる狡猾な微笑、多発する謎の事件……。そんな息子に“邪悪”の萌芽をみてとるが、エヴァの必死の警告に誰も耳を貸さない。やがて美しい少年に成長したケヴィンは、16歳を迎える3日前、全米を震撼させる事件を起こす——。100万人が戦慄した傑作エモーショナル・サスペンス、日本解禁！女性作家の最高峰・英オレンジ賞受賞作。（出版社 Web サイトより）

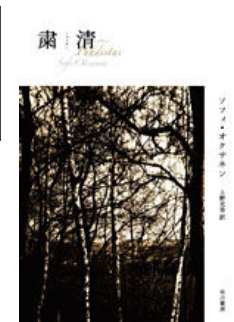
<投票者コメント>

- 全米震撼の“事件”を起こした少年と母親の猛々しいまでの愛憎が、親子、夫婦、家庭、社会への美しい誤解を完膚無きまでに粉砕する。すべてが終わったあとに作者が放つさらなる衝撃に震えた。
- あえてミステリとして語られる機会が少なかった本書に投票しました。



第8位 粛清

ソフィ・オクサネン (著) 上野元美 (訳)
早川書房 2415 円 (税込)
2012 年 2 月発売



エストニアの小村に暮らすアリーダは、ソビエト統治時代の行ないのせいで近隣からいやがらせを受けながらも、家族の土地を守りながら細々と生活している。ある朝、彼女は家の庭に見知らぬ若い女が倒れているのを発見する。またいやがらせ？ あるいは、最近流行りの盗賊の一味？ 悩みつつも、アリーダは衰弱している女を家にあげてしまう。その女はエストニア語を話すロシア人で、名前をザラといった。誰かから逃げているようだが、理由ははっきりしない。行動も奇矯だった。だが、孤独なアリーダは、ザラを家に匿うことに決める。激動の歴史に翻弄されたふたりの女の邂逅を描く、フィンランドの新鋭作家の代表作。（出版社 Web サイトより）

<投票者コメント>

- 女性たちが目を覆いたくなるような酷い目に遭い、読んでいて辛くなりましたが、それでも生き抜こうとする女性の強さに心を揺さぶられました。
- ミステリの範疇を越えて、しかし、その要素を強く持つ作品。読了後の驚き、更に、この読みで間違いはないのか？！と誰かと語り合いたくなるような奥の深いお話です。

第8位

償いの報酬

ローレンス・ブロック (著) 田口俊樹 (訳)
二見文庫 980円 (税込)
2012年9月発売



禁酒を始めてまもなく3ヵ月が経とうとしていた。いつものようにAAの集会に参加したスカダーは、幼なじみで犯罪常習者のジャック・エラーリーに声を掛けられる。ジャックは禁酒プログラムとして、過去に犯した罪を償う“埋め合わせ”を実践しているという。そんな矢先、銃弾を頭部に撃ち込まれ何者かに殺されてしまう。スカダーはジャックの遺した“埋め合わせ”リストの5人について調査を始めるが……。名作『八百万の死にさま』後をノスタルジックに描いたシリーズ最新作。(出版社 Web サイトより)

<投票者コメント>

- 全てが終わった後のアンコールとしての回想譚。もはや事件云々よりもスカダーと彼を取り巻く人々や街の余韻に浸れて幸せな読書でした。作品単体としてはこれ以上の作品もあるかとは思いますが、長年のシリーズへの敬意と愛着をこめて一票を投じます。
- よく歩き回り、人の話を聞くスカダーに会えてうれしかった。大事件が起こるわけでもない、結末もちょっと無理があるような気がしないでもない。それでも「おもしろかった」と思えるのは、まちや人が丹念に描かれているからだろうと思います。こういう話をもっと読みたいなあと思いました。

第8位

わたしが眠りにつく前に

SJ・ワトソン (著) 棚橋志行 (訳)
ヴィレッジブックス 924円 (税込)
2012年7月発売



「わたし」クリスティーン・ルーカスは、特殊な記憶障害を負っている。毎朝目覚める度、前日までの記憶が失われてしまうのだ。いまは長年連れ添った夫とふたり暮らし。毎日彼が誰かすらわからなくなるわたしを、夫は献身的な愛で受け入れてくれている。そんなある日、医師を名乗る若い男から電話がかかってくる。聞けば、すこし前から夫に内緒で彼の診察を受けているのだという。医師はここ数週間、あなたは毎日の出来事をひそかに書き綴ってきたと言い、日誌を見るように告げる。わたしは言われるまま、それを読み始めた。その先に何が待つのかも知らずに……。CWA (英国推理作家協会) 最優秀新人賞受賞作。(出版社 Web サイトより)

<投票者コメント>

- 自分が初読みだけでなく、作家としても新人の作品にここまでグイグイ引き込まれたのは久しぶりだったので、投票しました。
- 一気読みの面白さでした。展開にもドキドキしましたが、ラストもまたいいですね。
- <主な登場人物>欄が、たったひとり！ トリッキーな匂いがぷんぷんするでございませよ？

第13位

彼の個人的な運命

フレッド・ヴァルガス (著) 藤田真利子 (訳)
創元推理文庫 1029円 (税込)
2012年8月発売



先史時代専門、中世専門、第一次世界大戦専門の三人の個性的な歴史学者たちと、連続女性殺人事件の最有力容疑者である奇妙な青年。彼らが、あのボロ館で共同生活をすることに。目撃者、証拠とも、どう考えても犯人としか思えない男と……。ペットのカエルを連れ歩く元内務省調査員ケルヴェレールとともにパリを、ブルゴーニュを、走り回る〈三聖人〉大活躍。終盤の緊迫感は圧巻です。CWA賞3回受賞の作家、ヴァルガスの真骨頂！(出版社 Web サイトより)

<投票者コメント>

- 三聖人シリーズ大好きです。ストーリー面白い、キャラクターいとおしい、語り口楽しい、もっと続いてほしかったです。
- 色々悩みましたが、ここはあえてフレッド・ヴァルガスの「彼の個人的な運命」に一票。このシリーズはユーモアと登場人物の魅力がいいです。

第13位 シャントラム

グレゴリー・デイヴィッド・ロバーツ (著) 田口俊樹 (訳)
新潮文庫 1040 円 (上) 935 円 (中) 882 円 (下) (税込)
2011 年 11 月発売

男は武装強盗で 20 年の懲役刑

に服していた。だが白昼に脱獄し、オーストラリアからインドのボンベイへと逃亡。スラムに潜伏し、無資格で住民の診療に当たる。やがて“リン・シャントラム”と名づけられた彼のまえに現れるのは奴隷市場、臓器銀行、血の組織“サブナ”——。数奇な体験をもとに綴り、全世界のバックパッカーと名だたるハリウッド・セレブを虜にした大著、邦訳成る！（出版社 Web サイトより）

<投票者コメント>

- 『シャントラム』は私にとっては本を読む楽しさが全部詰まったような本でした。冒頭 1 ページ目の文章が特に好きで何度も読み返して音読したりしました。自伝のようできて下巻まで読めばきっちりミステリ小説です。そして熊！「男たるもの自分の熊を愛するべきだ」は名言です！
- インド大陸の奥深さをも体験できる圧倒的な人間ドラマに感動。



第13位 2666

ロベルト・ボラーニョ (著)
野谷文昭・内田兆史・久野量一 (訳)
白水社 6930 円 (税込)
2012 年 9 月発売

二〇〇三年、チリ出身の作家ロベルト・ボラーニョは、世界的に名声が高まるなか、五十歳の若さで死去した。遺作となった本書は、作家の文学的遺書ともいえる傑出した作品である。全五部からなる本書は、謎のドイツ人作家アルチンボルディの作品に魅せられた四人の研究者の物語から始まる。彼らはある目撃情報を頼りに作家の足跡を辿り、メキシコ北部の街サンタテレサに向かうが、そこでチリ人哲学教授アマルフィターノに出会う。数年後、ボクシングの試合を取材するためこの地を訪れたアフリカ系アメリカ人記者フェイトは、国境地帯で頻発する女性連続殺人事件のことを偶然耳にする。一九九三年から続くとされる事件の多くは迷宮入りとなっていた。そして最後に、作家の知られざる人生と、彼がメキシコに赴いた理由が、想像を絶するスケールで明かされる……。 (出版社 Web サイトより)

この地を訪れたアフリカ系アメリカ人記者フェイトは、国境地帯で頻発する女性連続殺人事件のことを偶然耳にする。一九九三年から続くとされる事件の多くは迷宮入りとなっていた。そして最後に、作家の知られざる人生と、彼がメキシコに赴いた理由が、想像を絶するスケールで明かされる……。 (出版社 Web サイトより)

<投票者コメント>

- 投票作がミステリーかと問われれば、たぶん違うかもしれませんが、謎の作家アルチンボルティを巡る物語が、一見するとどう繋がるかわからない展開の中で最終的に見事に集約していくところは、重厚なミステリーの謎解きを読んでいるような気分させられた。



第13位 フランクを始末するには

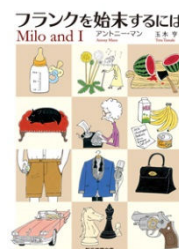
アントニー・マン (著) 玉木亨 (訳)
創元推理文庫 924 円 (税込)
2012 年 4 月発売

フランク・ヒューイットは芸能界の大スター。

殺し屋の“わたし”は彼の殺害を依頼され……。二転三転するスター暗殺劇の意外な顛末を描いた英国推理作家協会短篇賞受賞作のほか、刑事の相棒に赤ん坊が採用され一緒に捜査を行う「マイロとおれ」、買いものリストだけで成り立つ異色作、ミステリ出版界の裏事情を語る一篇など多彩な 12 作。奇想とユーモアあふれる傑作短篇集をお楽しみください。(出版社 Web サイトより)

<投票者コメント>

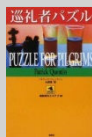
- ザ・奇妙な味といった趣の「豚」、まさかの感動作「契約」あたりが好みでした。
- 風変わりな作品が多く、異色作家短篇集的なこの本が文庫で 1000 円以下で手に入るというのは幸せなことだと思うので、もうちょっと注目されてもいいんじゃないかなあとと思います。



第17位 (17作品)

巡礼者バズル

パトリック・クエンティン (著)
水野恵 (訳)
論創社 2310円 (税込)
2012年9月発売



真鍮の評決リンカーン弁護士

マイケル・コナリー (著)
古沢嘉通 (訳)
講談社文庫 各880円 (上下巻 税込)
2012年1月発売



湿地

アーナルデュル・インドリダソン (著)
柳沢由実子 (訳)
東京創元社 1785円 (税込)
2012年6月発売



シンデレラの罇【新訳版】

セバスチアン・ジャプリゾ (著)
平岡敦 (訳)
創元推理文庫 777円 (税込)
2012年2月発売



追撃の森

ジェフリー・ディーヴァー (著)
土屋晃 (訳)
文春文庫 1050円 (税込)
2012年6月発売



天使のゲーム

カルロス・ルイス・サフォン (著)
木村裕美 (訳)
集英社文庫 945円 (上) 872円 (下) (税込)
2012年7月発売



チューダー王朝弁護士シャードレイク

C・J・サンツム (著)
越前敏弥 (訳)
集英社文庫 945円 (上) 872円 (下) (税込)
2012年8月発売



デイミター

ウィリアム・ピーター・ブラッティ (著)
白石朗 (訳)
創元推理文庫 1155円 (税込)
2012年9月発売



ファイアーウォール

ヘニング・マンケル (著)
柳沢由実子 (訳)
創元推理文庫 各1260円 (税込)
2012年9月発売



特捜部Q—Pからのメッセージ

ユッシ・エズラ・オールスン (著)
吉田薫・福原美穂子 (訳)
ハヤカワ・ポケット・ミステリ 2205円 (税込)
2012年6月発売



濡れた魚

フォルカー・クッチャー (著)
酒寄進一 (訳)
創元推理文庫 1050円 (上下巻 税込)
2012年8月発売



都市と都市

チャイナ・ミエヴィル (著)
日暮雅通 (訳)
ハヤカワ文庫SF 1050円 (税込)
2011年12月発売



ローマ帽子の秘密

エラリー・クイーン (著)
越前敏弥・青木創 (訳)
角川文庫 780円 (税込)
2012年10月発売



鷲たちの盟約

アラン・グレン (著)
佐々田雅子 (訳)
新潮文庫 746円 (上下巻 税込)
2012年8月発売



闇のしもべ (英国式犯罪解剖学)

イモージェン・ロバートソン (著)
茂木健 (訳)
創元推理文庫 987円 (上下巻 税込)
2012年9月発売



冥闇

ギリアン・フリン (著)
中谷友紀子 (訳)
小学館文庫 970円 (税込)
2012年10月発売



フロント船長がまだいい人だったころ

ニック・ダイベック (著)
田中文 (訳)
ハヤカワ・ポケット・ミステリ 1785円 (税込)
2012年8月発売



第34位（29作品）

タイトル	著者/訳者	出版社	価格	発売
アンドロイドの夢の羊	ジョン・スコルジー/内田昌之	ハヤカワ文庫 SF	1092 円	2012 年 10 月
アイ・コレクター	セバスチャン・フィツェック/小津薫	ハヤカワ・ポケット・ミステリ	1890 円	2012 年 4 月
恋するベーカリーで謎解きを カップケーキ探偵 2	ジェン・マッキンリー/上條ひろみ	RH ブックス・プラス	891 円	2012 年 8 月
首斬り人の娘	オリヴァー・ベチュ/猪股和夫	ハヤカワ・ポケット・ミステリ	1995 円	2012 年 10 月
スリー・パインズ村と警部の暑い夏	ルイズ・ベニー/長野きよみ	RH ブックス・プラス	998 円	2012 年 7 月
ザ・ウーマン	ジャック・ケッチャム&ラッキー・マッキー/金子浩	扶桑社ミステリー	840 円	2012 年 9 月
三十三本の歯	コリン・コッター/雨沢泰	ヴィレッジ・ブックス	924 円	2012 年 5 月
知りすぎた犬	キャロル・リーア・ベンジャミン/阿部里美	創元推理文庫	1029 円	2012 年 2 月
世界を売った男	陳浩基/玉田誠	文藝春秋	1260 円	2012 年 6 月
世界が終わるわけではなく	ケイト・アトキンソン/青木純子	東京創元社	2205 円	2012 年 11 月
紳士の黙約	ドン・ウィンズロウ/中山宥	角川文庫	1000 円	2012 年 9 月
第七階層からの眺め	ケヴィン・ブロックマイヤー/金子ゆき子	武田ランダムハウスジャパン	2310 円	2011 年 11 月
冷たい川が呼ぶ（上下）	マイケル・コリータ/青木悦子	創元推理文庫	各 987 円	2012 年 9 月
月に歪む夜	ダイアン・ジェーンズ/横山啓明	創元推理文庫	1260 円	2012 年 9 月
ティンカー、テイラー、ソルジャー、スパイ（新訳版）	ジョン・ル・カレ/村上博基	ハヤカワ文庫 NV	1155 円	2012 年 3 月
ナイト・ストーム	サラ・パレツキー/山本やよい	ハヤカワミステリ文庫	1218 円	2012 年 9 月
暴行	ライアン・デイヴィッド・ヤーン/田口俊樹	新潮文庫	704 円	2012 年 4 月
暴力の教義	ボストン・テラン/田口俊樹	新潮文庫	704 円	2012 年 8 月
フィデリティ・ダヴの大仕事	ロイ・ヴィカーズ/平山雄一	国書刊行会	2310 円	2011 年 12 月
ホーンズ 角	ジョー・ヒル/白石朗	小学館文庫	980 円	2012 年 4 月
バーニング・ワイヤー	ジェフリー・ディーヴァー/池田真紀子	文藝春秋	2520 円	2012 年 10 月
判事と死刑執行人	Fr. デュレンマット/平尾浩三	同学社	1260 円	2012 年 5 月
掘り出し物には理由がある	シャロン・フィファー/川副智子	コージブックス	930 円	2012 年 8 月
マッシュウズ家の毒	ジョーゼット・ヘイヤー/猪俣美江子	創元推理文庫	1155 円	2012 年 3 月
マッドアップル	クリスティーナ・メルドラム/大友香奈子	創元推理文庫	1365 円	2012 年 9 月
迷宮の淵から	ヴァル・マクダーミド/横山啓明	集英社文庫	1100 円	2012 年 6 月
迷走パズル	パトリック・クエンティン/白須清美	創元推理文庫	861 円	2012 年 4 月
野蛮なやつら	ドン・ウィンズロウ/東江一紀	角川文庫	1000 円	2012 年 2 月
夜毎に石の橋の下で	レオ・ベルツ/垂野創一郎	国書刊行会	2730 円	2012 年 7 月

※ ケイト・アトキンソン『世界が終わるわけではなく』は 2012 年 11 月発行なので、要項に照らせば対象外となりますが、参考としてそのまま載せています。

読書会・読者賞へのご意見抜粋 (改行等調整しています)

- 翻訳ミステリー大賞シンジケートさまのブログ・Twitter 等、いつも楽しく拝読して、参考にさせていただいております。このたび、読者賞が設けられて、投票させていただけることがとても幸せです。どうもありがとうございます。読書会はとても気になっておりまして、「今回はこの本が対象なのか！」と、読書会の告知を拝見しては、自分も参加した気持ちになって、対象の小説について改めて感想を思い起こしたり、未読の小説の場合は「読みたいリスト」に加えたりしております。
- 読者賞をたちあげていただいて、どうもありがとうございます。昨年、初めてコンベンションに出席してみたのですが、自分も投票した賞がある今年はより楽しくなりそうです！
- 読書会は課題図書好みでつい名古屋に行ってしまうがちです。関東で好みの課題図書が選ばれる日を一日千秋の思いで待っております。
- 読書会には一度参加してみたいと思うのだが、私自身はそれほど熱心な翻訳小説の読者ではないし、雰囲気圧倒されそうな気がして二の足を踏んでいる。
- 今年は、読者賞という素敵な賞を設けて頂き、とても嬉しいです。一般読者はなかなか「投票する」機会はないように思いますので（知らないだけでしょうか…?）、身近で気軽に参加出来るこの賞は大変意義あるものと思います。結果も楽しみです。読書会は、ぜひぜひ参加したいと熱望しているのですが、タイミングが合わずまだかなっておりません。一時は自分でやろうかなとも思っていたのですが、身近に活動している方がいらっしやることになりました。まずはそちらに参加することが、今年目標です。
- 読書会は、とても魅力的で、いつか参加したいと思って指をくわえて見えています。子供を預けての遠出ができるようになったら、二次会まで行くのが五年後の野望です。それまで盛会でありますように。
- 読者賞の創設すばらしいと思います。読者の視点から翻訳ミステリが盛り上がる事に期待します。
- 読書会には、是非行ってみたいのだが大阪近辺の作品は、どうもコースものの選出が多そうで、自分の趣向とは大きくズレる。ヒット出来る作品を気長に待つしかないのだろうか？ 時には、企画側が何作品か選んだ後に Twitter 等で1作を決めたりする手もあるのでは無いだろうか？
- 翻訳ミステリーの読書会に出るようになって、国内ミステリーしか読まなかったのが翻訳ミステリーを読む機会、しかも自分では手に取らないハードボイルドなども読むことができる、いい機会になっていると思う。他の地方との共同企画とかあると面白いかも。
- 読書会に何度か参加させていただきました。課題図書が普段は読まないジャンルの本だったり、他の参加者のお話から新しい情報を得たり、と、自分の読書の幅を広げるきっかけになりました。そのような機会を与えてくださりまして、ありがとうございます。今後の読書会にも期待しております。
- 読書会のおかげで今までなら出会わなかったであろういろいろな本が身近になりました。本仲間との出会いも読書会のおかげです。読書会の輪が、今後どんどん大きくなりますように！
- 「翻訳ミステリー大賞シンジケート」にも読書会にもとてもお世話になっています。一人で読んでいるよりずっと楽しいです。
- 読書会は興味はありますが、話についていけそうにないですし、やはり気後れしてしまいます。
- 読書会は同じことをしている筈なのに、各地それぞれの特色が出ていて楽しいです。これからもいろんな場所の読書会に参加したいと思います。
- 読書会は毎回とても楽しく参加させて頂いています。自分では絶対手を出さないであろう作品との出会いや、皆さんのアプローチの違いを知って自分の世界が広がる素敵な場です。読者賞はプロの方々(=大賞)とはちょっと違った結果が出たら面白いだろうな、とちょっと天邪鬼気分ワクワクしています。

- 今回、読者賞が創設されたと聞き、大変嬉しいのと同時に、自分なんか投票していいのか？と迷いました。何しろ、情けないことに、対象となる期間に出版された作品を読んでいなさすぎるからです。皆さん、新刊はどんどんチェックして読破していくツワモノばかりで、キチンと精査して投票されるのではないかと…。しかし、色々考えたあげく、このようなイベントが開催されるからには、参加者、投票者の数が多いことも、今後役に立つのではないかと思い、投票することにしました。
- 書評サイトを運営するカリスマ読者などではなく、ごく一般の読者が投票できる読者賞、前からあればいいなと思っていました。
- 読者賞につきまして、大変有意義な企画と思いますが、プロアマ問わずとお聞きしますと、率直な感想として本賞とどう違いを設けるのかという懸念があることは否めません。本賞よりも多くの人に参加できる分、翻訳者しか投票できない賞よりも、周囲から寄せられる信頼度が高まってしまうのではないかと、本賞をやる意味がなくなってしまうのではないかという気持ちがあるのも確かです。もちろんこれは結果を見ていない人間の言うことですから、蓋を開けてみればわたしの意見などただの危惧であるかもしれませんし、そうであるといいなと願っています。
- 読者から投票できる賞ができたのはうれしく思っています。これを機に少しでも翻訳ものを読む人が増えてくれたらいいなと。
- 今回のコンベンションで、「全国から集まろう読書会の輪！」の部屋がありますが、この集まりを定期的に行えたらいいなと思います。今回だけの企画ではもったいないですし、大賞授賞式は毎年東京でというならば、各読書会が毎年（或いは隔年）持ち回りで幹事を務めて、懇親目的だけではなく、各読書会が抱える問題点などを話し合ったりできる意見交換会を開いたりしていけたらどうかと思います。
- 翻訳ミステリー大賞シンジケートができて、読書会に参加するようになって確実にわたしの読書生活が変わりました。1冊の本について心置きなく話すことが出来る場がこんなに楽しいと思っていなかったです。読者賞も読んで「本の冊数は関係ない」って言葉に押されて参加します。未永く続きますように。
- 「一読者の意見を反映する」賞として、読者賞がどのような形で選ばれるのか非常に興味深く見ております。「今年だけ」の特別企画にせず、大賞同様にずっと続けていければいいですね。

初めての読者賞、結果はみなさんの予想と比べてどうだったでしょうか？

一年前のコンベンションでこの企画を口にしたときは、ほんの思いつきに過ぎませんでしたが、各読書会世話人のみなさんの連携で、なんとか開催に漕ぎつけることができました。

翻訳ミステリー読書会は、シンジケート事務局の尽力もあって、現在全国10ヶ所で定期的開催されています。どの読書会にもそれぞれ違った特色があり、それが大きな魅力となっています。しかし、これから翻訳ミステリーを読みたいと思っている人たちを全力で後押ししたいという思いは、どの読書会も等しく持っています。

今回の読者賞を通して、翻訳ミステリーや読書会に興味を抱いた方は、ぜひ次の機会に参加してみてください。きっと新しい読書の広がりが見えることと思います。そうやって、少しずつ輪が広がっていくことが、翻訳ミステリー読書会の願いです。

今回は、投票作のみならず、読書会や読者賞に対してたくさんの貴重なご意見をいただきました。いただいたご意見は、これから読書会、読者賞を企画していく上で参考とさせていただきます。

今回の読者賞は、たくさんの人々の協力がなければできませんでした。シンジケート事務局を始め、全国の読書会世話人のみなさん、参加者のみなさん、投票していただいた全国の翻訳ミステリーファンのみなさん、本当にありがとうございました。また次回お会いできるのを楽しみにしております。

全国翻訳ミステリー読書会連合